



JFSTA NEWS

NO. 09-006

2009. 8. 20

目	次		
[会員の広場]	1	会務報告.....	4
経過報告.....	3	事務連絡.....	4
会員カードの作成について.....	4	企画ツアーのご案内.....	5

[会員の広場]

JFSTAのサービスと会員の活動

理事 嶋津靖彦

JFSTAが発足して10か月が経ち、会員諸氏からはこの間2年度の会費を支払っていただいている。果たして期待に応えることが十分できているのか、できそうなのか、率直に言って現状は悩ましい。

本誌前号に紹介があったように、在京のボランティアによる当番制の事務局体制に切り替わって、筆者も7月以降毎週木曜日にオフィスに出向いている。会の発足以来会務を支えていただいた安永氏と浅田氏に感謝したい。目下のところ入会のご案内や新規入会のお礼状の発送などの業務は散発的なので、徐々に事務処理の継承と合理化を図りつつある。

JFSTA（以下単に協会と記す）の活動がどうあるべきか、本誌第1号には川口会長、原理事長の考え方が述べられており、これらに対しての会員諸氏からの意見が第2号に掲載されている。オフィスに詰めた初日に考えた。協会の活動

と成果を生む原動力は、会員による情報のインプットではないだろうか。

会員の利益と協会の利益

特定の分野の専門的知識を有する者を委員あるいは講師として委嘱したいので、推薦して欲しいという依頼はすでに何件もあり、その都度適切な会員を推薦してきた。これは協会の活動の実績であり、会員も規定に沿った謝礼を得る等の利益がある。依頼者が賛助会員の場合には、協会としての利益はすでに振り込まれた会費の一部ということになる。

元々技術者データベースの整備は協会の事業の柱の一つであるから、この際個々の正会員のデータベースを構築することが必要である。このことについては本誌別項にて提案したので、正会員各位からの迅速な回答をお願いしたい。

定期的にJFSTA NEWSを発行することは大切であり、最優先事項とし

て扱うようにとの会長からの指示を受けている。「会員の広場」への投稿をはじめとして、会員諸氏の積極的な意見や情報のインプットを是非お願いしたい。併せて、事務局としても、次項に記すような「水面下でのアヒルの水掻き」について、可能な形で随時報告することが大切であると考えている。

公募型の事業への応募

協会の財政を補強し、協会の運営と自主的な事業への投資を可能にするために、外部の競争的資金の獲得へ向けた努力も行ってきた。本誌別項に記したように、今年度は水産庁の3事業について協会の賛助会員と共同して提案を行った。残念ながらいずれも落札できなかったが、提案書の作成において賛助会員の若手技術者を指導したことは、長期的な視点から評価していただけたと思う。

現在も進行中の複数の案件があり、協会の活動の発展と財政の補強のためにも成果が期待される場所である。

ホームページの技術的強化

協会のホームページに掲載する情報を強化することは宿題の一つとなっており、「会員のページ」には研究成果と技術開発に係るプレスリリースの抄録を掲載した。今後逐次補強してゆきたいので、会員諸氏から情報提供をお願いしたい。

協会の要覧には講演会の開催・支援等の事業があり、出版、翻訳、資料、写真サービス等を行うことが記載されている。これらの活動は全国の会員が自宅で受け取って作業を進め、成果の対価を得ることが可能なものであろう。協会に関する情報が一層浸透することに伴って、このような依頼が増加してゆくものと期待される。

あるいは、すでに会員諸氏に対しての個別の打診や依頼があることも思われるので、もしも自らは受取ることができないような案件があれば、その場合には協会事務局へ情報を提供いただきたい。技術者データベースには、会員が在宅でできるような業務の項目も用意してあるので、協会として効果的な対応ができることになる。

こうした情報の提供と流通のためには「電子掲示板」を設置することが適切であろうと考え、水研センター本部の専門家の指導と協力を要請している。掲示板の管理と運営のためにはセキュリティの確保が必須であるから、予め登録した者(会員)によってのみアクセスが可能となるように設定しなければならない。

電子掲示板によって会員と協会事務局、会員相互間の情報や意見の迅速な流通が一举に活性化できるようになれば、協会に結集する広範な水産分野の専門家の共同によって構築される情報集積が可能となる。例えば、(社)農林水産技術情報協会のホームページ上の「農と生き物の博物館」には様々な情報が掲載されているので、是非見ていただきたい。筆者はその中にある「農業技術発達史」の水産版を作ることは一つの目標であると考えている。実はこのことは、農業研究OBの重鎮である西尾会長から過日挑発された課題なのである。

協会のホームページに特色のある地域発の情報を掲載できるのか、楽しみにしている会員あるいは一般の人も多いことと思う。

会員の利益と協会の利益は密接につながっている。会員諸氏による情報のインプットが協会としての活動の強化には必須であることを強調し、活発なご意見の提起を期待したい。

経過報告

1. 平成 21 年度水産庁事業への挑戦

水産庁が実施する各種事業のうち、これまで公益法人に対しては随意契約で実施されてきた事業が全て提案公募方式あるいは総合評価方式による公募に変更されました。そこで、新規事業（組替新規事業を含む）については、既存の公益法人に迷惑をかけることにはならないとの判断から、協会として次のような事業に提案書を作成し、応募しました。

(1) 平成 21 年度環境・生態系保全活動

支援推進事業（うち環境・生態系保全活動サポート推進事業）（水産庁漁港漁村部計画課：提案公募方式）
⇒結果は不採択。受託者は全国漁業協同組合連合会に決定。

(2) 平成 21 年度漁場環境・生物多様性

保全総合対策委託事業のうち沿岸域環境診断手法開発事業（水産庁増殖推進部漁場資源課：総合評価方式）
共同提案者：いであ株式会社（賛助会員）
⇒結果は不採択。受託者は(独)水産総合研究センターに決定。

(3) 平成 21 年度漁場環境・生物多様性

保全総合対策委託事業のうち赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業（赤潮情報等ネットワークシステムの高度化）水産庁増殖推進部漁場資源課：総合評価方式）
共同提案者：みずほ情報総研株式会社（賛助会員）
⇒結果は不採択。受託者は新日本環境調査株式会社に決定。

以上 3 件事業への応募については、残念ながらいずれの課題も採用されるには至りませんでした。理由は明らかにはされていませんが、評価項目には事業の内

容、関連事業の実績、財務内容、実施体制、予算額等が含まれています。これまでわれわれが培ってきた知識と経験をもとに提案書を作成していますので、事業の内容についての評価が特に低かったとは考えられないところです。あるいは J F S T A の実績や財務内容についての評価が厳しかったのかとも推量されます。

今後水産庁の事業に対してどのように取り組むかを含めて、会員の皆様のお知恵を拝借したいと考えますので、事務局までアイデアをお寄せください。

2. 水産総合研究センター広報誌の配布

水産総合研究センターが発行する刊物を協会の会員あてに直接郵送してもらうよう要請しました。センター広報誌「F R A ニュース」（季刊。最新号は No. 19）および「水産技術」（水産学会の監修による技術論文集。本年 9 月以降年 2 ～ 4 回刊行予定）です。

この他にも幅広い話題を収録したニューズレター「おさかな瓦版」（隔月刊。最新号は No. 29）についてはメールで送信していますので、配信を希望する方は、同センター広報室（電話 0 4 5 - 2 2 7 - 2 7 5 8, 2 6 2 4, 2 6 1 5）まで直接連絡してください。

3. ホームページへの抄録掲載

協会のホームページ「会員のページ」に研究開発・技術開発関連のプレスリリースの抄録を掲載しました。逐次補強・更新します。会員諸氏からの情報提供をよろしくお願いいたします。

会員カードの作成について (事前のお知らせ)

要覧にも記載されているJFSTAの事業として、技術者データベースの作成があります。本号「読者の広場」にもこのことについて触れたように、今回正会員の皆様のデータベースを作成することとしました。

近日中に正会員の皆様に様式をお届けしますので、e-mailにてお送りしたカードにご記入の上、事務局あてにメールにて返送していただくと、効率的です。

郵送の場合には、パソコンで記入していただいても、手書きでも結構です。

カードに記載された情報は事務局にて管理し、賛助会員や外部の関係機関等から専門家の紹介依頼があった場合等の本協会の事業に限り使用することとします。その際には、事務局は事前に候補者となる会員の了解を得ることとしますので、ご安心願います。

会務報告

平成21年8月20日現在の会員数は 正会員57名 賛助会員15法人です。

事務連絡

1 会費納入のお願い

通常総会及び送付便で会費納入のお願いをしましたが、まだ納入されていない方は下記への納入方よろしくお願ひします。

銀行口座

みずほ銀行 上大岡支店

普通 2958835

郵便局口座

振替口座：00190-5-546202

名義：一般社団法人全国水産技術者協会

名義：一般社団法人全国水産技術者協会

一般社団法人 全国水産技術者協会

〒107-0052

東京都港区赤坂一丁目9番13号

三会堂ビルB1

Tel 03-6459-1911 FAX 03-6459-1912

E-mail zensuigikyo@jfsta.or.jp

URL <http://www.jfsta.or.jp>

企画ツアーのご案内

奄美で400Kgのクロマグロを見てみよう

6月11日の通常総会で企画提案された第1回ツアー『甦るときめき-水産研究開発現場の見学-』についてのご案内です。このツアーでは独立行政法人水産総合研究センターのご協力を得て、奄美栽培漁業センターのクロマグロ親魚、種苗生産、幼魚の飼育施設の見学と最新の技術開発の現状を視察します。体重400kg（10歳）、150kg（5歳）にも達するクロマグロのコバルトブルーの体色、投げ与えられた餌を全速力で追い求めるシーンには圧倒されることでしょう。併せて、時間の許す限り奄美大島の産業と古仁屋（海底観光船等）・加計呂麻島の観光も計画しています。ツアーには協会から案内人が同行します。

現在のところ、ツアー実施要項は次のとおりです。

時 期：2009年9月末～10月上旬の2泊3日（土曜・日曜を除く）

日 程：1日目 羽田発→（経由空港）→奄美空港着～貸切りバスにて古仁屋へ

2日目 ホテル発～海上タクシーにて加計呂麻島の瀬相港へ～奄美栽培漁業センター訪問、クロマグロの親魚養成と種苗生産施設の見学、技術開発の現状の紹介～（昼食）～フェリーにて古仁屋へ～地元産業の視察～名瀬市のホテルへ

3日目 ホテル発～奄美空港へ～奄美空港発→（経由空港）→羽田空港着

参加費用：13万円程度（夕食代は自己負担です）

募集人員：10名（先着順）

参加希望・問合せ：全国水産技術者協会（電話）03-6459-1911

（fax）03-6459-1912 e-mail zensuigikyo@jfsta.or.jp



クロマグロ親魚の勇姿（左）と投餌風景（右）（写真：水産総合研究センター提供）